

平成 23 年度 NGO 人材育成研修 地域 NGO 提案型研修
「防災コミュニティ研修（関西地域）」

災害に強いコミュニティづくり

募集要項

開催日程:2012 年 2 月から 2012 年 3 月(全 4 回)

開催場所:(財)神戸学生青年センター(神戸市)

主催:JICA 地球ひろば

事務局:(特活)関西 NGO 協議会

1. 研修の目的

研修参加者が、国内外で発生した自然災害に対する復興支援活動や防災対策の経験・知見の整理、議論、経験共有をとおして、「防災コミュニティ*」に求められる基本的な考え方や取り組み手法を共有し、学ぶことを直接の目的とします。中長期的には、所属団体において、防災の観点を取り入れることによる活動の充実をめざします。

*本研修では、コミュニティに住む一人ひとりが自立して災害に備え、対処するための力をつけるとともに、住民、NGO や地縁組織、行政等が分野を超えたネットワーク構築に取り組み、災害時に協働して被害を軽減できるコミュニティを想定しています。

2. 研修の特徴

(1) 他団体の取り組みを知ることで、新たな視点が得られます

研修では、講師からの経験・知見の共有に加えて、ワークショップや参加者間での議論や事例紹介も予定しています。テーマに関するさまざまな視点、取り組みを学ぶことができます。

講師は、災害復興支援活動や防災対策に関する経験・知見の深い方を予定しています。

(2) 経験を学ぶだけでなく、実践のためのサポートをします

研修最終日には、実践に向けたセッションを開催します。また、研修終了後も事務局が適宜ご相談に応じます。

3. 研修日程及び内容

(1) 第 1 回「阪神・淡路大震災の経験から学ぶ」

2012 年 2 月 9 日(木)13:30～17:30

阪神・淡路大震災での NGO/NPO による復興支援活動の内容、成果、そこから得た教訓から、災害発生時のコミュニティの果たす役割について考えます。

講師:村井 雅清さん ((特活)CODE 海外災害援助市民センター) 他

(2) 第 2 回「海外での復興支援活動や防災対策の経験から学ぶ」

2012 年 2 月 17 日(金)13:30～17:30

NGO や国際機関、JICA などがおこなう海外での復興支援活動や防災対策の事例を紹介していただき、防災の視点からコミュニティのあり方について考えます。また、事例のひとつとして東日本大震災における NGO や JICA の取り組みについても取り上げます。

講師:斉藤 容子さん (関西学院大学総合政策研究科、元国際連合地域開発センター防災計画兵庫事務所) 他

※オプション:人と防災未来センター見学

(希望者のみ午前中に。入場料は支給されます)

(3) 第 3 回「災害に強いコミュニティとは」

2012 年 2 月 23 日(木)14:00～17:00

防災対策に取り組む海外 NGO スタッフの活動を紹介していただきます。

防災の視点から、コミュニティづくりにおいて異なる国・地域でも共通する要素を考えます。

講師:Muhammad Saidur Rahman さん

(Director of Bangladesh Disaster Preparedness Centre) 他

(4) 第 4 回「研修での学びを所属団体のプロジェクトに活かすために」

2012 年 3 月 1 日(火)13:30～17:45

防災の視点から、活動地のコミュニティを分析し、研修での学びをどのように所属団体のプロジェクトに活かすことができるか、各参加者に提案していただきます。

ファシリテーター:宮下 和佳 さん ((特活)ソムニード) 他

*必要に応じて、研修受講前及び各日程の間に事前課題を設けます。

4. 参加対象者、定員、参加費

(1) 参加対象者

関西地域を中心とする日本の国際協力 NGO スタッフで、下記の条件を満たしている方を主な対象とします。

- 1) 所属している NGO から推薦を得られる方
- 2) 研修成果を活用し、終了後も継続して所属団体の組織強化につなげることが可能な方
- 3) 研修での学びを他の NGO と積極的に共有し、関西の NGO 及び NGO セクター全体に還元していく意志のある方
- 4) 数年程度の国際協力活動の経験を有する方がのぞましい

※1 団体から2名での参加を推奨します。(1 団体からの参加者は2名を上限とします。)

※団体の今後を担うことが期待される若手・中堅スタッフの参加を推奨します。

※団体の実務を担うインターンや理事も参加可能ですが、その場合、原則として団体からは2名参加することとし、もう1名は常勤スタッフが参加してください。詳しくはご相談ください。

(2) 定員:20 人

(3) 参加費:無料

5. 参加申込方法、申込締切

添付の参加申込書に記入・捺印(団体印)の上、申込み先まで E-mail または郵送にてお申し込みください。2012 年 1 月 27 日(金)必着。

*いただいた個人情報は「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律(平成 15 年法律第 59 号)」に則り、適切に管理致します。

6. 選考方法と結果通知

定員を超えるお申込みがあった場合は、主催者および事務局が参加申込書に基づいて上記「4. 参加対象者、定員、参加費」の内容を考慮のうえで選考をおこないません。あらかじめご了承ください。

7. お問い合わせ・申込先

(特活)関西 NGO 協議会(担当:田中)

〒530-0013 大阪市北区茶屋町 2-30

TEL:06-6377-5144 FAX:06-6377-5148

E-mail:knc@kansaingo.net

講師プロフィール

村井 雅清さん ((特活) CODE 海外災害援助市民センター理事・事務局長)

1969年兵庫県立兵庫高校卒業、神戸の港湾に8年間就業した後、阪神・淡路大震災発生まで長田のケミカルシューズ業界に従事。震災後「ちびくろ救援ぐるうぷ」(現「ぐるうぷ“えん”」)事務局長(のち代表)として救援活動に取り組む一方、「阪神大震災地元 NGO 救援連絡会議」の分科会から独立した「阪神・淡路大震災『仮設』支援 NGO 連絡会」(現「被災地 NGO 協働センター」)の代表となり現在に至る。また、国内外の災害に対する支援活動に取り組み、海外では過去50回にわたってコーディネーター役を務める。

斉藤 容子さん (関西学院大学大学院 総合政策研究科後期博士課程所属)

大学卒業後は、(特活) CODE 海外災害援助市民センターに勤務。イラン、アフガニスタン、スリランカにおいて緊急支援および復興プロジェクトに携わる。イギリス・ノーサンブリア大学修士課程修了(防災と持続可能な開発)ののち、国際連合地域開発センター防災計画兵庫事務所にて研究員として勤務となり、2011年7月まで海外での防災プロジェクトに携わる。現在は関西学院大学大学院総合政策研究科にて博士後期課程。

Muhammad Saidur Rahman さん

(Director of Bangladesh Disaster Preparedness Centre (BDPC))

オーストラリアで防災対策を学び、オックスファム UK やバングラデシュ赤新月社等で重要なポジションを歴任し、現在に至る。

BDPCは1992年の設立以来、災害リスク軽減のためのコミュニティづくりに取り組んでいる。(特活) CODE 海外災害援助市民センターのパートナー団体として、2007年に発生したサイクロン「シドル」の被災者支援プロジェクトをおこなった。

災害対策に関連する国内外での研修やイベントにて講師、スピーカーも務める。

宮下 和佳さん ((特活) ソムニード)

(財)アジア福祉教育財団難民事業本部関西支部、(特活)関西 NGO 協議会での勤務を経て、2010年5月よりソムニード・インディア((特活)ソムニードからの派遣)にて JICA 草の根技術協力事業の現地業務調整員を務める。現在、(特活)ソムニード事務局長代行として、国内事務局の統括、海外事業の後方支援、研修事業の企画運営をおこなう。

専門分野は地域政策における住民参加、国際協力分野の人材育成(研修・セミナーの企画運営、相談対応、調査研究)。